

柴岡祐真 日本共産党埼玉県委員会県委員長のあいさつ

八潮市で起こった、道路陥没事故、これ政治のあり方もまた鋭く問うことになりました。

大軍拡で、湯水のように、軍事費はお金を入れると、それから一部、巨大企業には、兆円規模の大盤振る舞い、こういうことをしていても、国民の命と暮らしに直結する公共インフラは置き去りにする。このひどい自民党政治の姿を浮き彫りにしたと思います。

今日のシンポジウムのテーマ、水道と下水道の問題は全国的な課題となっています。

だからこそ、値上げを推進する勢力は様々な形で、マスコミを通じて値上げは仕方がないと諦めさせるためのイデオロギーを浸透させてきています。そうではないんだと。命と暮らしに、国が責任を持つことは当然なんだと。こういうふうに私達が反論をしていくために、理論的な力が今とりわけ求められています。

人が尊厳を持って生きていくためには、光熱水費光熱水をできるだけ低くするということが必要です。とりわけ水を安く提供するということは、絶対に欠かせないことだと思います。水道・下水道は、市町村で完結するという戦いではありません。県や国へ、一体になって声を上げていく、このことが必要になっています。

今日の学習会を力にして、それぞれの地域で、市町村、そして県、国に向けて運動戦いを起こしていきましょう。このことを申し上げまして、主催者を代表して、開会の挨拶といたします。